

式 辞

春の息吹を感じる今日の佳き日に、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、第一二五回卒業証書授与式を挙行できますことを心より御礼申し上げます。

さて、卒業生百六名のみなさん、卒業おめでとう。六年生としての一年間は、この証書を受け取る自分づくりの一年だったと思います。六年生になった四月、君たちはどんな姿で今日を迎えるかを話し合いましたね。そこで決めた六年生の最上位目標は、他の学年からかっこいいと思われる手本となる姿で一年を過ごし、思い出に残る卒業式にすると決めました。どうですか、小学校最後の授業は、イメージどおりに進んでいますか。

君たちの小学校六年間は、振り返ると社会が大きく変わった激動の六年間でした。一年生から二年生になる時、コロナの感染拡大で学校が休校しました。休校を知る最後の世代が君たちです。コロナ感染の様々な制約を受けながらも、新しいあり方を工夫してきた学校で、今年の修学旅行では、富勢小の子供たちとして初めての挑戦をしました。日光街道散策だった活動を、日光街道探検と名前を変えて、東照宮直前の日光街道にあるお店に取材をし、情報をまとめ、ポスターに仕上げてお店にお届けするというプロジェクトを行いましたね。その学習は、昨年度の六年生から引き継がれた富勢地区の魅力アップ作戦につながりました。柏市内で人口減少が著しいと推計されている富勢地区。その魅力を伝え、富勢地区に来てもらう、住んでもらうということを目的に、動画づくりに取り組みましたね。この富勢には縄文時代から人々が住んでいたこと、江戸時代には布施弁天から須賀神社を通り江戸川につながる街道には多くの人が行き来していたこと、昭和の時代には軍の施設があり今住んでいるところの多くは、その跡地であることなど、地域の方に聞いたり、自分たちで本を調べたりして見えてきたものを、コマーシャル動画を作りました。私は、最初にできた動画を見せてもらい、ほぼ全ての動画に改善点を伝えました。ふるさと協議会の方からも、多くの修整箇所の指摘をいただきましたね。君たちは、「せっかく一生懸命つくったのに、なんでダメって言われるんだ」と不満に思ったことでしょう。実際に校長室に来てどこが悪いのか納得がいかないと説明を求めてきた人もいましたね。でもその時に、このお店の人はこの動画を見てどう思うだろう。この動画を見た人は富勢に行ってみたいと思うだろうか、と相手の立場になってみてみることを伝えると、作り直すという次の行動につながって、グループで力を合わせて修正を行ってきましたね。

動画を作る中で、調べること、知ることと、わかることと、説明できること、相手にそのことが伝わること、の違いに少しづつ気がついていきましたね。君たちの動画を見て、富勢に行ってみたい、住んでみたいと思う人が、増えていく。そうです、日光街道のポスターも富勢の動画も、君たちが学習として行ったことが、誰かの役にたっていく、人の気持ちを変えて、社会を変えていく小さな力になっているのです。そこには、「富勢っていいところですよ」「このお店は素敵ですよ」と思う君たちの思いや熱が大切です。この熱というやつは、夢を持って挑戦する時、夢を叶えようと努力し壁にぶつかってもやり抜こうとする時に出てきます。

4月から中学生になります。中学校三年間を通して、将来への夢を持ち、叶えるために挑戦し、

やり抜こうと試行錯誤しながら、熱量を高めて、そして「自律」していって欲しいと願っています。この自律とは、自分を律すると書きます。自律するってどういうことなのか、最後の授業の卒業式に考えてみようと予行の時に話しました。ちょっと隣の人と話してみてください。

「自分でなんでもできるようになる」「自分で責任もってやる」「人の手は借りない」って思いますよね。それは、自律ではなく「孤立」なのです。人は一人では生きていけないです。

では、自律とはどういうことなのか？ これからどんどん大人になっていくと、どんなに熱量をもってがんばっていても、困ったこと、辛いこと、苦しいことと出会います。そういう時に、なにくそ！っとがんばるでしょう。がんばっても頑張っても、辛く、苦しいことってあるんです。そういう時に、「助けて」「手伝ってください」って言えること。自分ではなくて、友達ががんばっても困っている、友だちが辛そうだなって感じたら、「何か手伝おうか」って手を差し伸べることができる。それが自律なのです。夢を叶えるために、苦しい中、困っている、辛い中で、手を差し伸べ合ってつながる、自律した者同士がつながると、そこに生まれるのが「絆」です。

君たちが大人になるこれからの社会は、予測困難で、正解の無い課題に取り組んでいく社会だと言われています。そこで大切になるのが、熱量のある夢と自律した者同士の絆です。

社会には色々な課題があります。その課題解決は、誰かがやってくれるもので、自分で何かをするものではない、と大人たちは考えがちです。世の中には、自分の夢を叶えるためには邪魔になるものが多いです。だから早く誰かなんとかしてよと思いません。でもその課題を自分事として、夢を叶えるになんとかしようという熱を持ち、お互いの熱を合わせながら、みんなで社会をつくる。熱量のある「夢」と弱さをわかってつながる「絆」の両方を持ち、絆で結ばれた人たちが集まる社会をつくる。そういう経験をする中学校生活を送り、大人に向かって自律していって欲しいと願います。

最後になりましたが、本日ご臨席いただきました保護者の皆様。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。お子様は最も多感な時期に入ります。子供を信じて、少し遠くから温かく見守ってください。そしていつまでも「子供があこがれる大人」でいて頂きたいと願います。そんな皆様の姿が子供たちを支えます。これまで本校にお寄せいただいたご理解とご協力に改めまして感謝を申し上げます。ありがとうございました。

そして、富勢中学校区コミュニティ・スクールの基盤となり、子供たちの学びを支えてくださいましたボランティアの皆様、高いところから恐縮でございますが、本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。これからも本校の子供たちへの、熱量あふれるご支援ご指導をお願い申し上げます。

さあ、卒業生のみなさん、羽ばたきの時です。大きな空の、自分が目指す夢に向けて、大きく羽ばたいてください。富勢小学校の先生たちは、いつまでもいつまでも応援しています。富勢小の百二十五回目の卒業生として、自信を持って未来を創る大人になってください。

令和七年三月十四日

柏市立富勢小学校 校長 梅 津 健 志